

佐陀神能保存会 (神事芸能保存伝承/島根県松江市)



会長 石橋淳一氏

【由来】

佐陀神能は毎年9月24・25日に行われている佐太神社の「御座替祭」の神事として発展した民俗芸能であり、神事と一体である「七座神事」と、法楽である「式三番」「神能」で構成されている。

「御座替祭」は、江戸時代までは支配下の神職、巫女によって行われていたが、現在では、佐陀神能保存会が奉納している。

【経歴】(2023年4月現在)

- 1961年 島根県指定文化財に指定
- 1976年 国の重要無形民俗文化財に指定
- 2011年 ユネスコ無形文化遺産の登録

佐陀神能保存会は、国の重要無形民俗文化財に指定され、ユネスコ無形文化遺産に登録されている「佐陀神能」の保存継承活動を積極的に行っている。

長い歴史を持ち、神事と民俗芸能を一体化させた「佐陀神能」を守り伝えるために、毎年4月～11月にかけて定期公開を実施し、伝承されてきたさまざまな演目を披露している。

また、全国各地に残る神楽団体を招いた交流公演「神座(かむくら)」を行うなど、佐太神社の神事奉納を続けながらも、発表活動を精力的に行っている。2020年1月には東京国立劇場主催の民俗芸能公演「出雲の神楽」に出演するなど、国内でも高い評価を受けている。

2019年度からは、子ども佐陀神能教室事業をスタートさせ、地域に伝わる「佐陀神能」に触れる機会をつくり、次世代の担い手育成にも力を入れている。

あわせて、佐陀神能民俗文化財調査事業をもとに、文化庁の補助を受けて、「佐陀神能」で使用する面・衣装・用具の復元なども手掛けている。

このように、佐陀神能保存会は、これまでの高い格調を保持し、保存・継承に取り組んでおり、その活動は高く評価されている。

受賞の言葉

この度は、第29回エネルギー賞(伝統文化賞)をいただき厚く御礼申し上げます。

私ども佐陀神能保存会は、島根県松江市鹿島町に鎮座の出雲二ノ宮 佐太神社の御座替祭で演舞する神楽の伝承に取り組んでおり、佐太神社および近郷諸社の神職や地元有志15名ほどで活動しております。

「佐陀神能」は七座神事・式三番・神能の三部からなり、江戸時代初頭に現在の形に整えられ、各地の里神楽に少なからず影響を与えたといわれています。先人の不断の努力により今まで継承されてきましたが、これを後世へつないでいくため日々研鑽に努めております。今回の受賞を励みに、より一層継承活動に取り組んでまいりたいと存じます。

「佐陀神能」を継承していく上で、後継者育成問題、老朽化した衣装や面などの諸道具整備などさまざまな課題があります。後継者育成としては令和元年度より「子ども佐陀神能教室」を開催しておりますが、次代を担う子どもたちに「佐陀神能」の素晴らしさを伝えていければと思います。

また、文化庁・島根県・松江市にご協力をいただき、諸道具の整備も鋭意進めておりますので引き続き皆さま方のご支援を賜りますよう宜しくお願いします。



式三番「翁」
平成28年(2016)9月25日
正遷座祭奉祝祭にて



神能「八重垣」
平成30年(2018)9月9日
特別公開にて



子ども佐陀神能 練習風景
令和3年(2021)